

一主婦からの新発田市政通信

発行者 青木三枝子

新発田市御幸町 3-1-21

TEL 0254-26-8334

平成 25 年 8 月 第 3 号

今回も、駅前複合施設建設問題についてお伝えします。

1 街頭で市政通信を配りました。

駅前複合施設のワークショップ開催日が近づき、何とか市民の皆様に参加を促したいと思い、市内 3 箇所のコンビニをまわりチラシを置いて頂けないか頼みました。2 箇所に断られ落胆した私は、自分で街頭に立って通信を配ることにしました。

新発田警察署に行き、諸注意を守ればチラシ配りの届出が必要ないことを確認したうえで、8 月 21 日の早朝から街頭に立ちました。駅前に図書館を建てたほうがよいとってチラシを受け取らない男性もいました。以前、新庁舎のチラシを配ったことを覚えてくださり、快く受け取って下さった方もいましたが、殆どの方が、複合施設建設についてよく知らないといった様子でした。賛否はともかくも、あまりに市民が知らないことが問題と考えます。この通信を配ることで少しでも関心を持ってもらえればよいのですが。

駅前交差点に立って気づいたことは、豊町方面から地下道をくぐりぬけ歩いてこられる方が多いということでした。また、自転車をやっと押し上げてくる方を多く見ました。駅を橋上化していれば、どんなにか便利であったろうに感じました。橋上化に反対し当選した市長ですから、今さら橋上化するとは言えないでしょうが橋上化はすべきだったと今さらに思いました。

2 パブリックコメントの情報公開請求をしました。

パブリックコメントの内容が、議員に対して要約して配布されていました。それを見た時、賛成何人、反対何人というような表現となっていて、いかにも賛成が多いことを強調したような内容となっていたことから、自分の意見書以外に、どのような内容があったのか知りたいと思い情報公開請求をしました。結果、57 の意見書が提出されたなかには、市民の声を聴くべきだという意見が、406 名の署名をつけたもの以外にも多くありました。中心市街地活性化セミナーの時、セミナーを打ち切ろうとしたことに抗議した人達がいたという事実や市民との対話を持って欲しいとする署名活動が行われたという事実を、訳も分からず闇雲にただ反対する、数の暴挙等として中傷する内容もありました。学生の居場所作りをと希望するものがあり、一般図書に移す必要はなく、ミニ図書館を作ることで要望が満たせる内容のものもありました。車での移動が中心の街づくりでは、活性化は望めないとの意見、何枚にも書かれた街づくり提案など実際に読まないと分からないことが多くありました。これらのパブリックコメントをもとに公開討論が行われると、より市民参画が促せると思います。

3 8 月 25 日のワークショップに参加しました。

ワークショップ参加は、8 月 16 日までに申し込んだ人だけが継続して参加できること、2 回目以降からの途中参加は出来ないことが、参加して初めてわかりました。ワークショップ参加者は今回申し込んだ 41 名に固定されます。次回から参加しようとしていた方は、傍聴のみ可能です。このような方法をとるのであれば、事前の広報で知らせるべきです。広報には明確な記載がありませんでした。これからは 41 名が市民の代表なのでしょうか。

申し込み時は、こども支援センターと図書館問題に分かれて話し合うということになっていました。しかし、始まってみれば、実質的なワークショップではなく、市民の声を聴く場でもあったのです。もしそうならば、たった 41 名なのですから事前にそのことを知らせるべきではないでしょうか。すでに設計の図面が出来ているものと思って参加された方が、図面が示されずがっかりされていました。

会が始まるや否や、下妻副市長が、約 50 分間、何故、現図書館横に増設できないかを延々と説明されました。理由として示されたのは、都市下水路が通っているため移設が困難、文化会館と図書館駐車場の間には過去からの道路計画がある、借地 2 箇所があり購入が困難である、文化会館落谷小路記念館があり図書館を建てると景観を壊す等と説明されました。片山市政の時に、これらの問題は詳細な検討がなされた上で現庁舎付近と決定していたわけですから、新庁舎問題に関わってきた人がこの理由を聞けば笑われるような内容でした。

今回は時間が延長され、一応は意見を聞いてくれましたが、行政側は聞くだけでした。救いは、設計者が図書館設計者としては多くの経験を持ち、市民と共によりよい図書館を作ろうとする姿勢がみられることでした。しかし、このままでは、歴史資料館（本館）として残す現図書館は、市民から忘れ去られる日が来るでしょう。もう一度、坪川洵平氏が、この地に図書館を建てた精神を思い出したいものです。

実質的な図書館移設に反対している自分の中に矛盾がありますが、これからも諦めずワークショップに参加しようと思います。皆様も傍聴に来て頂くようお願い致します。

今後もワークショップの経過をお伝えしたいと思います。議会報告の前にこの 3 号をお届けします。